

## 第4学年5組 学級活動指導案

令和5年6月19日（月）第5校時  
場 所 4 年 5 組 教 室  
児童数 男子13名女子17名計30名  
授 業 者 小 坂 井 達 也

### 1 題材「身の回りの安全」 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

#### 2 単元について

##### (1) 児童の実態

本学級の児童は外遊びが好きで、休み時間には校庭で元気よく遊ぶ子が多い。そのため、休み時間後の授業が始まる時間になると、怪我をして帰ってきたり保健室に行ったりする児童も数人いる。「怪我に気を付ける」「落ち着いた生活を送る」ことが大切だとはわかっているが、楽しいことに夢中になってしまい安全に対する意識が薄れてしまうことが多い。また、5組が使用するトイレが遠くにあるため、5分休憩に間に合わせようと廊下を走ってしまう児童も多い。

今年度は「廊下は右側を歩こう」を意識して、互いに声を掛け合いながら移動する姿が見られるようになってきている。しかし、怪我に関するアンケートの結果によると、廊下だけではなく、教室内や階段での怪我の経験も多いことが分かった。指導されたことに対して気を付けようとすることはできるが、自分から危険を予測して行動することに対しては課題が残っている。

##### (2) 題材設定の理由

本題材で扱う学級活動(2)に関する内容「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」は、小学校学習指導要領に以下のように位置付けられている。

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

この内容は、心身の機能や発達、心の健康についての理解を深め、生涯にわたって積極的に健康の保持増進を目指すものであり、日常の健康や安全に関する問題に自ら気づき、よりよい解決方法を考える的確な意思決定や行動選択を行うなどの活動が中心となる。

導入では、実態アンケートの結果や昨年度の校内の怪我マップを提示することで、校内には様々な危険箇所があることを改めて想起することとともに、一か月で150人以上もの怪我人がいたことから自分事として捉えさせたい。原因の追求では、怪我が多い場所を6つに分け、グループごとに分担しながらムーブノートに怪我の原因を書き込ませながら共有を図る。その際に写真を貼り付けておくことでそれぞれの場所の危険を想像しやすくする。各グループがまとめた怪我の原因を基に全員で怪我をしないための解決策を見つけ、意思決定につなげていく。今回の学習では、自分が怪我をしないという自分意識だけで終わらせるのではなく、周りに人に危害を加えないという他者意識を高めることができるように指導していきたい。

### 3 第3学年及び第4学年の評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、よりよい生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題に気付き、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために見通しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題解決に取り組み、他者と協力し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

### 4 学校課題研究との関わり

<b>研究主題</b> <b>9年間を見通した安全教育の推進</b>
---------------------------------------

#### 【研究主題に迫る視点と手立て】

視点(1) 自ら考えることができるようにする工夫	視点(2) 進んで伝え合うことができるようにするための工夫	視点(3) 考えを深めることができるようにする工夫
<b>手立て①</b> 資料の精選  導入時の怪我マップやムーブノート内の写真等の資料を精選することで、題材に対して自分事として捉えることができるようにする。	<b>手立て①</b> ONE NOTEの活用  ONE NOTEの共同編集を活用することで一人ひとりが自分の意見を伝えやすくするとともに、考えの共有を図りやすくする。	<b>手立て①</b> T・Tの活用  養護教諭との連携を図り、解決策を見つける際に新たな観点から方法を提示することで、自己決定の幅を広げられるようにする。

### 5 事前指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題材を知る。</li> <li>・ アンケート調査を通して、題材に関する自分の問題を考えておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間指導計画で設定した題材について、問題意識を高め、児童の実態や問題の状況を確認しておく。</li> </ul>	<b>【主体性】</b> アンケート調査を通して、題材に関する自分の問題を考えることで、よりよい校内の過ごし方について見通しをもとうとしている。

### 6 本時の学習

#### (1) 目標

校内の危険個所を理解し、怪我のない安全な過ごし方ができるような行動目標を自己決定する。

(2) 展開

学習過程	児童の活動	・指導上の留意点 ◇手立て	資料等	目指す児童の姿と評価方法	時間
【導入】 (1)問題の把握(つかむ)	1 休み時間の過ごし方を振り返る。 2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ケガのない、安全な過ごし方を考えよう！</div>	・アンケート結果より課題があることに気付けるようにする。  ◇資料の精選 (① - 1) ・安全な生活を送ることの良さを感じられるようにする。	・アンケート結果のグラフ ・R4年度の校内怪我マップ ・怪我が多い場所ランキング表		5
【展開】 (2)原因の追求(さぐる)  (3)解決策(見つける)	3 怪我が多い場所での原因をグループで話し合い、共有する。  4 それぞれの場所での解決策を考え、共有する。  5 養護教諭の話聞く。	・ONE NOTE にそれぞれの場所の写真を2～3枚ずつ貼り付けておくことで、写真からどのような怪我に繋がるか想像しやすくする。 ◇ONE NOTE の活用 (② - 1) ・原因追求と同じグループで解決策を話し合い、動作化して発表させることでイメージを具体化させる。 ・話し合いでは気付かなかった解決方法や視点を養護教諭から話をすることで自己決定の幅を広げられるようにする。 ◇T・Tの活用 (③ - 1)	・ONENOTEと写真 (教室、廊下、階段、トイレ、水道、下駄箱)		12  18
【終末】 (4)個人目標の自己決定(きめる)	6 自分の課題に合った具体的なめあてを決める。  7 自分が決めためあてを発表し合う。 8 教師の話聞く。	・考えられずにいる児童には、黒板に出ている考えの中から選べるよう声を掛け、自己決定を促す。 ・これからの実践に向けて意欲を高める。	・振り返りカード	【思考・判断・表現】 話し合い活動を基に安全な過ごし方について考え、自分の行動目標を記入している。 (観察・振り返りカード)	10

